

特別活動 「北朝鮮よ、姉 横田めぐみを帰せ!」～拉致被害者と人権を考える～

<生徒の感想>

今回講演を聞いて、私自身とても考えさせられるものがありました。まずわずか 13 歳の女の子が拉致されたという事実。自由や平和、人権が急に剥奪され見知らぬ土地に連れていかれるストレスははかりせれません。大人でも耐えられるか分からない所業に、横田めぐみさんは心身ともに大きな傷を負ったと思います。船から出されたときに、横田めぐみさんの手が血で染まっていたという話にとても心が痛みました。このような残酷な事実をなかつたことにはいけない、という横田さんご家族の気持ちはごもっともです。この講演を聞く前は、私はこの拉致問題のことをどこか遠く、関係のない問題だと思っていました。しかしその考えは今日で改めます。今後はこの拉致問題を知っている一人として決して他人事にはせず、またこの課題を忘れないでいるために「自分だったらどうだろう」と考える姿勢を崩さずに生活していきたいです。

今まであまりこの拉致問題の事件について身近に感じていなかったし、詳しくは知らなかったけれど、今回、横田めぐみさんの弟、横田拓也さんからお話を聞いて、この拉致問題は今も問題となっている事件で、世界各国の人が被害にあっていることを知ったし、日本は北朝鮮からして拉致しやすい国と判断されているから、自分が拉致される可能性があったかもしれないと思って自分事として考えさせられた。また、めぐみさんの家族は自分たちの想像以上に辛い思いと必死な思いでめぐみさんを探していることを知って、めぐみさんへの思いがとても強いことを感じたし、本当にすごいと思った。めぐみさん以外にもまだ拉致されたままの人はたくさんいると知ったから、なるべく早く拉致されている人が解放されてほしいと思った。今回の話を聞いて家族といられる嬉しさ、家族の大切さを改めて感じた。これからもさらに家族のことを大切にしたい。今回貴重な体験をできて本当に良かったと思う。自分がこの事件に役に立てることは少ないかもしれないけど、この事件が風化しないようにたくさんの人に広めて少しでもめぐみさんのことをみんなに知ってもらいたいと思った。そして、これからはニュースで流れてきたら特に注目して見たいと思う。

私はこの講演会の説明を受けるまで、拉致事件があったことを知りませんでした。また、「拉致問題」と聞いた時、歴史の授業で習うような遠い昔のことだと考えました。しかし、今から約 50 年前の事件だと知り、なぜ自分が知らなかったのか、と思いました。横田めぐみさんのご家族が現在も活動を続けているのに知らなかったのは、大勢が他人事としてこの問題を捉えているからだと思います。そしてこのまま年月が経てば「拉致問題は昔に起こった悲しい事件」という印象だけが残るだけなのではないでしょうか。人権を無視したこの拉致問題は、忘れることなく次の世代に伝えることが、私たちにできることだと思います。そして、そこで他人事として捉えるのではなく、自分や自分の家族が同じ被害にあったらどうするのかを考えるべきだと思います。

横田さんのお話のなかで、めぐみさんが拉致されたことを世に訴えかけても誰も耳を傾けてくれなかったということを知りました。その時私は、「拉致される」ということが自分や自分の周りの出来事ではないからそのような態度になるのだと思いました。また、最後に横田さんが言っていたように、拉致された人たちは今も「自由」ではないけど、自由な私たちが何も行動を起こさないのはおかしいことだと思います。このような拉致被害は自分たちが生きている国で起こっている事だから、決して他人事ではないこと、そして自分の家族や友達が拉致されたら自分はどう思うのか、どのような行動をするのか、自分事として考えていくことが必要だと思いました。